

第30回 市長と話そう会

- ◆日 時 令和2年11月17日（火）
10:00 ～ 11:30
- ◆場 所 JA さが山内支所
- ◆出席者 JA さが助け合い組織「きらり」
代表者 宮崎 様 他 25名



市民の皆様と市長が直接語り合う「市長と話そう会」第30回目はJAさが助け合い組織「きらり」の皆さんと「地域の福祉活動」というテーマで意見交換を行い、コロナ禍のサロン活動を開始するにあたり多数のご意見をいただきました。また、テーマの枠を超え、武雄市の観光や施設管理、職員の窓口改善など幅広くご意見をいただき、貴重な意見交換ができました。以下、抜粋して掲載しております。

○市長挨拶

新型コロナウイルス感染者が増えてきた。佐賀県内の介護施設でもクラスターが起きた。大事なことは、換気すること。少し窓を開けて常時換気すると一番良い。手を洗い、消毒を行う等、基本的な感染予防をしっかりと行いましょう。

○質疑応答

(参加者) 元気な高齢者をさらに元気にしたい。コロナとうまくつきあってサロンを行いたい。今後、どういう風に実施していけばいいか。

(市長) まずは山内町のサロンを行っていることに感謝したい。一番感じるのは、コロナは怖い、孤立、孤独がもっと怖いということ。ちょっとした声掛けをすることで、つながっているという安心感が得られ、孤立孤独の解消につながる。どうすればできるのかを考え、時間を短縮し、人数を絞る等やり方はいろいろと考えられる。工夫して開催し、ちょっとした機会をつくるのが大事。ただし、回数を増やすのは負担増となる。できることをできる範囲で開催し、無理はしないこと。

(参加者) 13年間という長い間サロンを開催してきた。11月からお弁当の提供なしで再開する。今後もサロン参加者が安心してこれるサロンを目指したい。

(市長) 消毒液を置き、窓を開けておくなど基本的なことを行うこと。感染症予防対策を

行っているという環境を整えておくことが大事。

(参加者) 市の老人福祉センターでのデイサービスでもお食事をされているのか。

(市長) 通常通り運営している。地区についても限定はしていない。

(参加者) 市役所に手続きに行ったときに受付の人によって対応が違った。

(市長) 職員間で情報ややり方を共有しないといけない。分からないことや迷ったことは、上司に相談する等を徹底したいと思う。

(参加者) 難聴の方にはマスクをしていたら声がわかりにくい。透明のマスク(マウスシールド)は口の形がわかりやすい。

(市長) パーティションがある時はマスクを外すなどの対策を検討したいと思う。

(参加者) 山内農村環境改善センターは文化活動でよく使っている。施設の管轄が分かりにくい。椅子の修理がなされていないようだが、いつ頃になるのか。

(市長) 施設の管轄については、市民の方にとってはわかりにくいですが、市全体で少しずつ変えていこうとしている。例えば公園については、公園課を設置し一括管理を行う。施設全体の管理も分かりやすいよう改善したいと考えている。山内農村環境改善センターの管理状況について詳細を確認し、利用者の方が安心して使えるようにしたい。

(参加者) 佐賀県がイクメン1位となっているが市役所の男性職員の育児休暇の取得はどうか。

(市長) 共働き家庭が増えており、職員の意識はだいぶ変わってきている。部下の子育てや介護をサポートとしようという制度があり、武雄市は県内で唯一「イクボス宣言」を行っている。

(市長) 「きらり」の特徴は何か。

(参加者) なるべく地元の野菜を使用し、JA さがみどりで食事を作っている。

○閉会